

公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・長野

2018年度 第2回コーチ会議 議事録

1. 日 時 2018年12月2日(日) 10:00～12:00
2. 場 所 メトロポリタン長野 会議室(志賀)
3. 出席者 伊澤喜久子(理事長) 渡邊務(S P委員長) 他31名(別紙名簿参照)
5. 議事経過の概要

【報告事項】

1. 「2018年第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知」報告
理事長伊澤より9月22日～24日に開催されたNGに、長野県選手団36名(団長1名、コーチ・追加スタッフ11名、アスリート23名、パートナー1名)を派遣。金メダル9個を獲得する等、好成績を収めることが出来たとの報告があった。
2. 「2019年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アブダビ」日本選手団決定報告
同じく理事長の伊澤より、世界大会の日本選手団として、長野県からユニファイドサッカー競技を中心に12名(アスリート5名、パートナー5名、コーチ2名)、ゴルフ競技1名(コーチ)の13名が選出されたとの報告がなされた。

【審議事項】

1. 2019年第2回冬季地区大会について

中沢アルペンスキー競技部長より、当初の予定通り、1月19日～20日に飯綱リゾートで開催。競技はアルペンスキーとスノーボードのみ。

スノーシューとクロスカントリーは、コーチがアブダビの日本選手団に選出され、世界大会の合宿と重なるので、開催不可能となった。との経過報告がなされた。

また、参加者は、東海・北信越ブロック、山梨、群馬のSOに声がけし、現在、他県では愛知、福井、山梨、群馬から参加の返事をいただき、トータル94名(アスリート・コーチ・ボランティア79名、ファミリー15名)が参加予定。

スケジュール他、皆さんの了承を得た。

本年、いまだ雪が降ってこないことが心配との声が挙がった。

2. 2019年度事業計画

- (1) ユニス・ケネディー・シュライバーデー

7月に、昨年SO日本と協力の提携を結んだ、ライオンズクラブの長野県内のライオンズクラブとの共催で「ユニファイドボウリング大会」開催を計画していることを、渡邊SP長が報告。

開催場所に関して、諸々の案が出されたが、12月中旬にライオンズ側と会合を持ち、概要を話し合い、その結果を待って、進めることで了承を得た。

- (2) 合宿計画

2020年2月に冬季ナショナルゲームが開催されるので、大会前に冬季競技

クロスカントリースキー、フィギュアスケート、フロアホッケーが合宿計画を提案。了承された。また、ショートトラックスピードスケートは、毎夏、SON・東京と合同で、長野県の野辺山で合宿を行っているの、長野県だけの合宿を行わない旨の方針が伊藤成二競技部長から報告。こちらも了承された。

全体合宿は行わないのかとの質問があったが、以前より人数も増え、また皆さんから、競技別合宿の希望が多く出され、今日の合宿の形になったことを説明。

(3) コーチクリニック計画

アルペンスキー・スノーボード同時開催で、すでに SO 日本に申請中。

開催場所は<アサマ2000スキーパーク>を予定。

卓球・陸上競技（松本新規立ち上げ）の他、ボウリングも2019年度のコーチクリニック開催を希望。

(4) コーチ会議計画

第1回 4月20日（土）午前 コーチクリニック（GOA）

午後 コーチ会議

第2回 12月1日（日）午前 コーチ会議

午後 サンクスデー

(5) その他

- ・コーチ同士の情報交換の場が欲しいとの要望があり、飲み会など計画して欲しいとの要望が多数あった。また、帰宅時間を考慮し、日中の開催の希望が多かった。検討して計画してみたい。

- ・ファミリーコーチから、コーチがアスリートと直のLINEで連絡を取り合ったりしているが、しっかりしているようでもアスリートなので、必ずファミリーにも知らせたい旨の要望があった。

- ・SOのロゴの扱いについて、理事長から注意があった。

SO日本・長野のロゴを使って自身の名刺を作ったり、また競技内でユニフォームを作りたいと思ったときは、SOではロゴの使用について規程が細かく決められているので、必ず、長野事務局に申し出て、許可を得ること。

- ・SOの日常プログラムにかかっている保険

プログラム開催場所についてから、プログラムが終わるまでをカバー。行き帰りは個々で責任を持つこと。

大会などのイベント参加は別途かけている。

宿泊を伴うもの、移動方法がバス、飛行機、鉄道等、保険では細かい区分けがある。心配な方は旅行保険等を個人で掛けるように。

- ・アスリートのプログラム参加について

体験参加は1回

同意書・医師の診断書・身近な方からの医療情報・賛助会費の納入があって、初めて参加できる。

来年度、会費納入の際、明記する予定。

- ・インフルエンザの流行等、プログラム開催に問題が出たときは、プログラムを中止する決断もコーチには必要。
- ・アスリートの健康状態は常にチェックし、問題の時はファミリーに連絡する。

※ 渡邊務 SP 長が、SO のプログラム実施中の医療・安全についての注意事項を実際にあった全国での事例に触れながら話をし、コーチの皆さんからの質問・相談が投げかけられた。以下会議の中で出た事例等について挙げる。

<プログラム中の一般の方々とのトラブル>

ボウリング・・・アスリートが隣の一般の人のレーンに侵入。

→ 一番端のレーンを借り、境界線はファミリーに協力を依頼。

ボウリング場の関係者と密に連絡を取る。周りの方の邪魔にならないようにしながらも、どのような活動かを理解していただく。

一般客の少ない時間にプログラムを行う努力をしている。

スピードスケート・・・一般の人との接触事故

→ 貸切が望ましい。

難しい時は、オープン直後の1時間など、人が少ない時にプログラムを実施。

一般滑走と一緒にいる時は、マンツーマンで注意。

<ボランティアやアスリートの服装>

テニス・・・若い女子学生が、テニスの競技の服装（短いスカートやショートパンツでボランティアに来てくれるが、男子アスリートが落ち着かなくなり、競技に集中できなくなって困っている。

ボウリング・・・愛知の全国大会でも、他県の女子アスリートが、はやりの短い衣装で競技をしている。

→ テニスは大会の時は服装の決まりがあったりして、対策が難しい

ボランティアには、次回から長いズボンを履いてきて欲しいと頼む。

<プログラムの現場に不審者がいるときの対応>

あらゆるプログラムで、スマホを使って、低い位置から写真を撮っている人などが見受けられる。撮った写真は、すぐにSNSやインスタグラムなどに投稿されている。

→ 気が付いたら、本人に注意し、会場から出てもらうとの意見が多かったが、逆切れされたりするので、不審な時は警察に連絡する。

以上

12月2日(日)コーチ会議 参加者名簿

1	長野	柳本健二
2	長野	荒牧由美子
3	長野	本堂敬
4	長野	佐藤和秀
5	上田	渡邊務
6	上田	望月秀明
7	上田	若林紀美子
8	上田	宮下和彦
9	軽井沢	土屋達夫
10	軽井沢	原田修
11	軽井沢	行田伸一
12	軽井沢	添田麻里子
13	軽井沢	小須田健児
14	軽井沢	宮本久美子
15	軽井沢	中田たか子
16	軽井沢	西澤秀子
17	軽井沢	荻原秋代
18	軽井沢	山田秀光
19	軽井沢	監物直美
20	佐久	森泉仁
21	佐久	森泉貞雄
22	佐久	中沢朝幸
23	松本	金箱英己
24	松本	金箱礼子
25	諏訪	伊藤成二
26	いほく	伊東久子
27	いほく	森本理恵子
28	長野	宮澤左知子
29	松本	矢口貴久
30	長野	山川ゆかり
31	長野	田中美沙緒
32	上田	大澤哲夫